天界

第百六十七號（第十五卷）　（昭和十年）三月號

火星來る

觀測と技巧……理學と藝術

（卷頭言）

今二月末日を以つて火星は停留となり，三月初日からは逆行に移つて，いよいよ火星面の觀察シーズンに入る．對衝は來る四月7日，又，地球への最近距離は同月14日に9300萬粁となる．次ぎの停留が五月19日に起るまで，まだウス寒い夜間を通じて，全世界の火星觀察者は忙しい時期を持つわけである．

火星の接近の度ごとに吾等は逝きし中村要君の事を偲ぶ．天文學の諸部門中，外國にはあつて，未だ日本に拓かれないものゝ多い中にも，火星や木星の表面觀察は，今から十數年前，中村君によつて着手されたもので，しかも其れが豫期以上に進展したものゝ一つであつた．中村君が逝つて後，斯の方面に淋しさを感じてゐたが，幸ひにして最近，又，新進の觀測者が輩出しつゝある現狀であるから，徒らに失望する必要はあるまい．

火星の表面觀察は，其の興味がひろく宣傳せられてゐる割合に，實地觀望者を落膽せしめるもので，殊に小望遠鏡所有者は，何の素養もなくてイキナリ覗いて見て，余りに星が無意味な像であるために非常に失望すると共に，今まで世に宣傳せられてゐる火星世界の興味の數々を根本から疑ふ人さへある．之れは，しかし，一應止むを得ないことであるが，皆之れ等は書物ばかり讀んでゐて，觀察の體驗に重きを置かないためである．アマチユアのみならず，天文の專門家の中にも，かの「運河」の存否等を極めて輕く批判し去る人が少なくない．しかし，火星の觀察には非常に特殊な技巧を要するのであつて，從つて之れは理學と藝術との接觸點でもある．こうした心の用意無くして觀察を試みる者は，むしろ先づ自らの資格を疑ふべきである．

ひとり火星や木星のみならず，太陽黑點も，彗星や流星（特に微光流星）の觀測も，變星や二重星の觀測にも，皆，特に洗練された技巧が偉大なる成績を擧げる事實を知らねばならない．（山本）